

P1-0030

兵庫県士会 スポーツ活動支援部の活動報告

三星 健吾, 佐藤 伸明, 高橋 洋介, 前川慎太郎, 田中 敏之, 安村 明子, 大牧 良平,
柳川 智恵, 瀧口 耕平, 古川 裕之, 北河 朗, 吉貝 香織, 恒藤 慎也, 中西 拓也, 高見 良知
兵庫県士会 スポーツ活動支援部

key words 社会貢献事業・スポーツ障害・トレーナー活動

【目的】

2008年に啓発部事業の一つであったスポーツ啓発事業を、より一層充実した活動を行うために独立した部としてスポーツ活動支援部(以下、スポ活部)が誕生した。

今回、当部の活動実績と今後の課題について報告する。

【活動報告】

現在活動を企画・運営している部員は17名(男性12名 女性5名)、サポートスタッフ(以下スタッフ)登録者は124名(男性95名 女性29名)である。

サポートを行っている競技は、成長期および育成年代のサッカー、高校柔道、市民マラソンと、障害者スポーツとしてシッティングバレー・車いすテニスの5種目である。

部員は、各競技に班長1人と班員3名程度の小グループを作り、年間の活動計画や勉強会の企画を作成する。その企画内容にしたがい、スポ活部全体でサポートする形をとっている。

主なサポート内容は、試合中の選手に対するコンディショニングおよび障害予防につなげるためのメディカルチェックや、スタッフに対し各競技の特性や各現場に必要な知識および技術に関する勉強会である。

年間の活動日数は5種目すべての、試合前の勉強会、当日のサポート、サポート後の反省会を含めると、年間30日程度となっている。

【考察】

選手および大会関係者からの我々に対する認知度は、サポートを重ねるごとに向上している。

一方でサポートする競技が増えてくるに従い活動時期が重なり、スタッフの確保が困難な場合がある。

スタッフの知識および技術の維持・向上を図りながら、現場活動へ継続的に参加するモチベーションをいかに維持していくかが大きな課題である。

【結論】

今後の方針として、社会貢献事業としての活動の継続と更なる発展はもとより、今までサポートしてきた選手の評価および治療効果をまとめ、各スポーツの特性を把握し発生しやすい外傷や慢性障害を啓発し、予防事業にも力を入れていきたいと考える。